



ヨコハマまちかど政治

わねら版

発行 自民党かながわ1区支部  
編集長 平木 茂  
平成22年9月 1日号

2010年  
9月号  
No.93

**自民党**  
中区・磯子区・金沢区  
神奈川1区  
支部長  
**松本純**



松本純ホームページ 毎日更新中! [http:// www.jun.or.jp](http://www.jun.or.jp) ▶ 検索キーワード「松本純」

# 子宮頸がん予防ワクチン接種を国費で プロジェクトチーム事務局長として実現に向け頑張ります



子宮頸がん予防ワクチンに関するプロジェクトチーム

皆さんは子宮頸がんについてご存知でしょうか？

若い女性を中心に子宮の入り口付近にできるがんで、年間およそ8500人が子宮頸がんと診断され、およそ2500人が亡くなっています。命を取りとめた人でも手術で子宮を摘出しなければならないことも多く、子どもが産めなくなるケースが少なくありません。しかし、この子宮頸がんは「予防できる唯一のがん」といわれています。

子宮頸がんは性交渉によるウイルス感染が主な発症原因と考えられているため、10代前半でのワクチン接種と定期的な検診によって予防が可能だ

といわれています。日本でも去年12月にワクチンが承認されて予防接種が可能になりました。しかし、ワクチンは3回、接種しなければならず、およそ5万円という負担が重くのしかかっているのが現状です。

「予防できる唯一のがん」といわれながら、5万円の費用が負担できないためにがんに罹るなどということはあってはなりません。自民党と公明党は、先月、「子宮頸がん予防ワクチンに関するプロジェクトチーム」を立ち上げ、私は事務局長に就任しました。プロジェクトチームでは神奈川県選出で公明党の松あきら参議院議員と協力して検討を進めているほか、7月の参議院選挙で初当選した自民党の三原じゅん子参議院議員もメンバーとなっています。



このプロジェクトチームが中心となり、ワクチン接種とその後の検診費用を国が負担する仕組みを実現させていきます。全国の市区町村ではワクチン接種の費用を国に先立って負担する取り組みが広がっていますが、住んでいる場所で補助が受けられなかったり受けられなかったりすることを防ぐためにも出来るだけ早く国の仕組みを作らなければなりません。

一方で、国が費用を負担する以上は専門的な立場からの幅広い検証が不可欠であることは言うまでもありません。ワクチンは子宮頸がんの原因となるすべてのウイルスに有効ではありません。ワクチンである以上、当然副反応（副作用）の懸念もあります。さらにワクチン接種さえすれば安心なのではなく、その後の定期的な検診と組み合わせることで初めて予防が可能となります。ワクチン接種に伴うメリットとデメリットを正確に分かりやすく伝えていかなければなりません。こうした点について、プロジェクトチームでしっかりと議論していきます。

ワクチン接種の国費助成に向けて、厚生労働省も来年度予算案の編成に向けて、必要な予算を要求するようです。

自民党は野党の立場から、政府・民主党の政治姿勢や政策を厳しく追求するのは当然です。他方、必要な政策について協力する姿勢も必要だと考えています。国会審議を通じて法案をより良いものにしていくことも野党の重要な役割です。薬剤師でもある松本純はこれまで取り組んできた社会保障分野の政策を中心に建設的な姿勢で政府・与党との論戦に臨んでいきます。

いま地域で  
(人・まち・出来事)

子どもたちを見守る「学援隊」の活動

●中区老人クラブ連合会 8代目会長 松浦徳治さん



松浦会長

「地域の安全と活性化が合言葉」と地域づくりに取り組むのは中区老人クラブ連合会8代目会長の松浦徳治さん。毎年地域の運動会開催の時は、「必ず観に来てくれ」と連絡をくださいます。松浦会長は老人クラブの活動に限らず、地域のためになることなら、どんなことでも意欲的に取り組んでいます。

平成17年10月、当時の大鳥小学校校長から「児童の安全確保を図るため児童の登下校時等の見守り活動をする学援隊を組織したい」との提案がありました。その時、松浦さんが発揮したリーダーシップは見事なものでした。

自治会、PTA、老人クラブと協議を重ね、「大鳥学援隊」を組織、隊長役は自らが務めたのです。

「現役世代は仕事が忙しくなかなか時間が取れないのはしょうがない。我々の様に多少時間に余裕ができ、元気な高齢者、地域活動の現役世代が、自らの地域を守れば良いんだよ」――。

暑さ寒さの厳しい日や、雨の降る日も、休むことなく通学路に立ち、通学風景を見守り、子どもたちに声をかける松浦さんは、「子供達の無邪気な笑顔、元気なおはようの挨拶に接すると喜びを感じるね」と目を細めます。

学援隊設立から間もなく5年、揃いの隊員ジャンパーと帽子を身に着け、子供達の安心、安全な登下校を見守る「学援隊」のまなざしは子どもたちにも十分浸透し、今ではなくてはならない地域の力の一つになっています。

松本議員の活動記録

2010年  
7月、8月

〔7月〕

- 25日●2010年日本列島クリーン大作戦 神奈川プロジェクト開会式典  
●富岡八幡宮例大祭・祇園舟
- 30日●第175回臨時国会召集  
●消費者問題に関する特別委員会
- 31日●2010年日本太極拳友会交流演武大会式典

〔8月〕

- 2日●衆院予算委員会・基本的質疑
- 6日●自民党・公明党子宮頸がん予防ワクチンに関するプロジェクトチーム初会合

- 8日●第445回本牧神社「お馬流し」お馬送り式式典  
●神奈川県柔道整復師会元会長斎川治利先生旭日双光章受章祝賀会
- 10日●横浜港経営戦略会議・横浜港国際戦略港湾推進協議会・横浜港議員連盟合同会議
- 14日●根岸八幡神社例大祭式典  
●北方皇大神宮例大祭式典
- 20日●東京地方税理士・神奈川県税理士政治連盟第44回定期大会懇親パーティー



7/25 富岡八幡宮の祇園舟／猛暑の中、夏の神事に身も心もひきまじりました



7/31 新山下の夏祭り／港の風を感じながら笑顔と笑顔の素敵な一夜でした



8/14 麦田町の祭礼縁日／模擬店も大人気。懐かしい話にも花が咲きました



8/14 中原自治会の盆踊り／浴衣姿も華やか！進行役は地元、関勝則市議です。

永田町日記

「酷暑」を乗り切った皆さんと実りの秋へ

野党暮らしが一年になりました。昨年、一昨年は内閣官房副長官として目が回る程忙しかったのですが、今年の8月は公務がほとんどなく、地元の皆さんとじっくり話ができて、野毛の商人の皆さんとも話をしました。

「今年の5月から商売が急降下したまま三ヶ月がたち、サッカーのワールドカップなのか、酷暑なのか、それともわが店の商品やサービスが悪いのか真剣に心配し、その対策に頭を悩ませているが一向に上向き気配がない」との事でした。

私は議員になる前、野毛で父から受け継いだ薬局を生業とし、毎日の売上に一喜一憂の生活をしてきたので、サラリーマンや商人の人達の不安や悩みは痛いほど自分の問題として感じます。

この一年、民主党政権の下、経済の安定をなかなか実感することができません。私は、日本の経済は、商人(企業も含む)が自助自立で活発に動き、その結果として税収が上がり、それを国民の皆さんが納得できるよう合理的に使う事が良いと思っています。そのためにも、地域の商人の皆さんの商売繁盛こそが、景気回復の基本なのだと思います。

私にとって今年の8月は意味のある月となり、皆さんの励ましで酷暑を乗り切ったと思います。これからは実りの秋を地域の皆さんとご一緒に共有してゆきたいと思っています。(純)